



病児保育室「愛あいルーム」だより

平成31年4月発行

暖かく気持ちのよいほかほか陽気と共に、新年度がスタートしました。今年度も地域との連携を図るために感染症の流行状況などをお知らせしていきたくと思います。よろしくお願いします。

4月はクラスが変わったり、初めて集団生活に入ったり・・・と環境が変わる時期なので、体調を崩す子どもさんが多くみられます。現在、感染性胃腸炎・溶連菌感染症・リンゴ病の流行がみられています。



病児保育室「愛あいルーム」は、病気のお子さんをお預かりする事業です。

病中または病気の回復期にあるお子さんを、勤務等の都合のために家庭で保育できない保護者に代わって、保育士と看護師が医師と連携をはかりながら、一時的にお預かりする事業です。

●対象

- ①高知市に住所があること
- ②保育所等に在籍しているお子さん、または小学校1～3年生までのお子さん
- ③病中または病気の回復期で集団保育が困難であり、かかりつけ医からこの事業の利用が可能と判断されたお子さん
- ④保護者が勤務等の都合で、家庭で看護することが困難なお子さん



●利用には登録が必要です（事前登録がおすすめ）

利用には、年度ごとに登録申請書が必要です（利用時に登録申請も可能）。また利用時には医師連絡票に医師の記載が必要です。高知市実施施設、子ども育成課、高知市内の小児科等で配布しています。また高知市子ども育成課のホームページからもダウンロードできます。

●登録申請の年度の区切り

2018年度 2018年7月1日～2019年6月30日
 2019年度 2019年7月1日～2020年6月30日

病後児保育と病児保育はどう違う！？



病児保育と病後児保育の違いは、「病気の回復期」と「病中」のどちらの子どもを保育するかという点です。病後児保育では、子どもの病気が治りかけているものの完全には回復しておらず、集団保育が困難な子どもの保育を行います。まだ通常の保育に戻るほど本調子ではないものの、熱や症状は落ち着いてきているといった場合には、病後児保育の利用がおすすめです。

病児保育は、病気の回復期に至っていないことから集団保育が困難な子どもの保育を行います。病児保育は病中の子どもを預かることから、保育園に併設されている施設より、病院や診療所に併設されている施設のほうが多くみられます。

高知市内の病後児対応型保育施設

施設名	住所	電話番号	定員	開設日時	備考
宮前保育園 ぱんぷきん	宮前町 139-2	824-0128 (直通)	6名	月～金曜日 8:00～18:00 予約受付時間も同様	利用対象は医療機関で病後児と診断をうけたお子さん

2018年度報告 延べ利用数 590名

2018年度もたくさんの方にご登録、ご利用をいただき、ありがとうございました。感染症の流行は、咽頭喉頭炎などの風邪症状が多く、その次にインフルエンザAでの利用が多くありました。その他、急性腸炎、RSウイルス感染症など様々な病状でのご利用もありました。満室や感染症状によりお預かりできないこともあり、申し訳ありませんでした。2019年度もどうぞよろしくお願いいたします。

寒さも少しずつ和らぎポカポカとした春の陽気を感じられるようになりました。花粉症の方にはつらい季節となってきましたね。今回は「花粉症」について紹介します。

❖花粉症とは

スギやヒノキなどの植物の花粉が原因となって、くしゃみ・鼻水などのアレルギー症状を起こす病気です。季節性アレルギー性鼻炎とも呼ばれています。原因となる花粉の飛び季節にだけ症状があります。日本では、約60種類の植物が花粉症を引き起こすと報告されています。

主なアレルゲンとして、スギ・ヒノキ・カモガヤ・オオアワガエリ・ブタクサ・シラカンバなどたくさんの種類があります。



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ハンノキ属												
スギ科												
ヒノキ科												
ハシバミ属												
イネ科												
クマシデ属												
コナラ属												
スイバ												
ブナ属												
シイ、クリ												
ギシギシ												
ブタクサ属												
ヨモギ属												
カナムグラ												

(参考：厚労省花粉症研究班 日本列島空中花粉調査データ)

❖子どもが花粉症かな！？と思ったら・・・

花粉症の症状は大人とあまり変わりません。ただ、子どもは自分の症状を言葉で表すことができないので、「くしゃみ」「鼻水」「鼻づまり」以外のちょっとした変化に気づいてあげることが重要です。



①目をこする

頻繁に目のあたりをこすったりします。その他に、目の充血や目のまわりのむくみなどもよくみられます。

②口で呼吸している

鼻が詰っていて、うまく呼吸ができず口をあけて呼吸することもあります。

③屋外に出ると症状が悪化する

「そういえば外に出るといつも症状がひどくなる」は要注意！よく観察を。

④鼻をピクピク、口をモグモグする

鼻がムズムズするので、こすったり、かいたり、鼻をピクピク、口をモグモグして鼻や口のまわりをしかめたりします。また、鼻をいじり過ぎて、鼻血を出すこともあります。



❖耳鼻科？小児科？眼科？受診する科に迷ったら・・・。

花粉症かなと思ったら耳鼻科の受診をおすすめします。

咳が強い場合は小児科、眼の症状が強い場合は眼科を受診して下さい。

❖花粉症から受ける日常生活への影響は？

くしゃみ・鼻水・鼻づまりなど鼻の症状が長く続くため、生活の質は、心身ともに低下します。鼻づまりによる口呼吸のために、のどの渇きや痛み・かゆみ、頭痛を訴えることもあります。その他、不眠、授業中の居眠り、イライラ感、全身倦怠感や集中力の低下など学業への影響が出ることもあります。